

日本列島の下で 何が起きている？

—地球市民の書棚から③⑤

地球市民 大村 昌宏



日本列島の下には大ナマズが居るらしい。それも何匹も。最近こいつらが活発に動き出した。列島で営む私達は、たまったものではない。いつ巨大地震が襲うのか、大津波が襲うか気が気でない。戦後、私達は、「豊か」で便利な経済社会を築いてきた。しかし、たまたまこの間、ナマズらが静かなだけだったらしい。日本列島の歴史を振り返ると周期的に大ナマズが大暴れし、巨大地震や火山噴火が発生、大きな被害を人間社会にもたらしてきた。今、日本列島は、「1000年ぶりの大地変動の時代」に入ったと警鐘を鳴らしている科学者がいる。それも首都直下地震、南海トラフ巨大地震、富士山をはじめとする活火山の噴火など、いつ起きても不思議でない。そんな時代がここ数十年続くと。

地球科学者は、大ナマズの正体が「プレートの沈み込み」であると説明している。そして巨大地震や火山噴火が周期的に発生するメカニズムを解明した。「プレート・テクトニクス」と「ブルーム・テクトニクス」の理論だ。いずれも20世紀に入って確立したばかりの最新の理論だ。科学者の創造的な洞察力と観測装置の発達によることが大きい。

大ナマズの正体が分かり、その活動の周期性も分かってきた。私達は、ただ恐れるだけでなく、対策をこうじることで被害を最小限にする

ことができる。最悪のリスクを予測しこれに備えることだ。科学的知見にもとづき多面的に検討することが必要だ。

しかしこれが「経済的利害関係者」によって歪められたら破局が訪れる。その「歪み」が一時的に人間社会で通用しても、ナマズ（地球の自然の摂理）には通用しないからだ。残念ながら3.11 原発事故を巡ってそんな事態が発生していた。今のままでは「国民の生命と財産」が奪われる事態が……。

